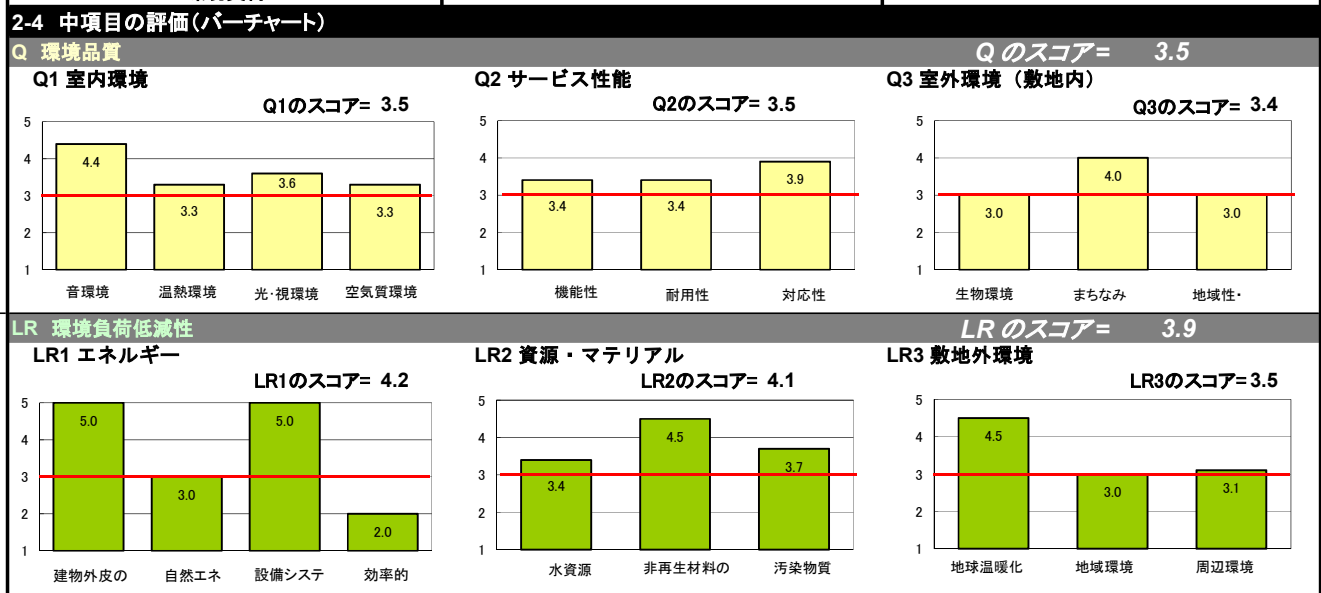
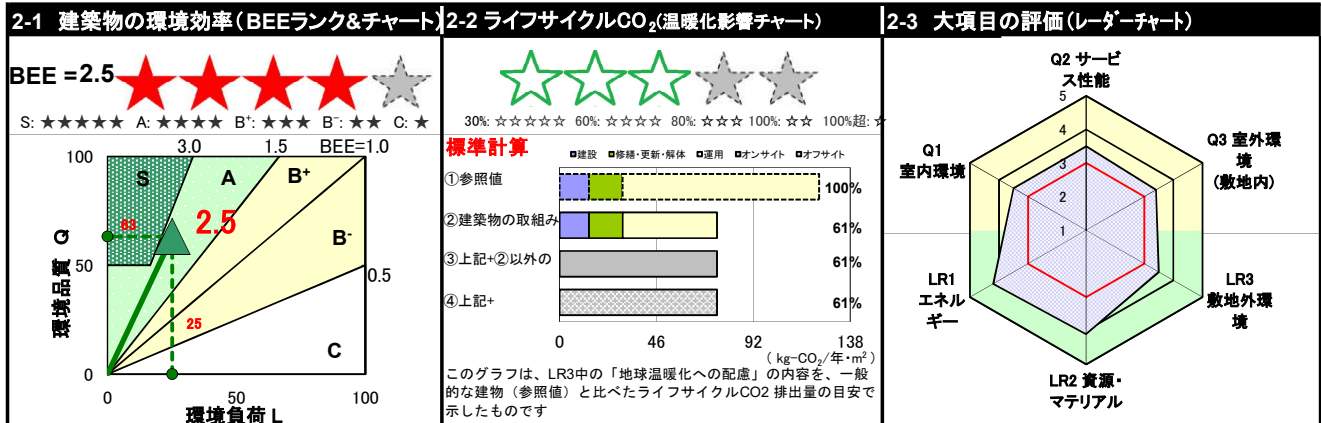


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 (使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)城南信用金庫新横浜支店ビル計画	階数	地上12F
建設地	横浜市港北区新横浜2丁目4番13.14	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,512 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,470 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2023年12月8日
敷地面積	1,294 m ²	作成者	株式会社フジター級建築士事務所
建築面積	1,039 m ²	確認日	2023年12月8日
延床面積	11,804 m ²	確認者	株式会社フジター級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		
総合 新横浜駅前の城南信用金庫の支店である。 基準階となる事務所は貸室を想定しており、レイアウトの自由さや、屋外の情報を得られる窓の設置など、執務スペースの環境に配慮している。 また、高効率設備機器の採用により、環境負荷削減に配慮している。		その他 0
Q1 室内環境 ・遮音性能の高いサッシを採用している。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い内装仕上げ材を採用し、更新必要間隔に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・自生種や食餌木植物の採用により、生物環境の保全と創出に配慮している。
LR1 エネルギー ・設備システムの高効率化を行い、一次エネルギー消費量の削減に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・再利用可能な部材を採用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を排出しないよう配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
(仮称)城南信用金庫新横浜支店ビル計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.5
Q1 室内環境			0.40		-	3.5
1 音環境		4.4	0.15	-	-	4.4
1.1 室内騒音レベル	45dBである。	4.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能はT-2である。	5.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能	—	-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	1.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	床、天井に吸音材を使用している。	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御		3.7	0.50	-	-	
1 室温	—	3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	室内の熱の侵入に対して配慮している。	4.5	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	大まかなゾーニング+冷暖同時方式	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	—	3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	—	3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.6	0.25	-	-	3.6
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率	—	3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口	—	-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	—	3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	700lxの照度を確保している。	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	1作業単位で照明制御が可能、自動照明制御ができる。	5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		3.3	0.25	-	-	3.3
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用している。	4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1 換気量	—	3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	—	3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	—	1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	—	1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	ビル全体を禁煙とし、喫煙室の設置はない。	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	1人当たり9㎡以上の執務スペースを確保している。	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	—	1.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす。	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	2.7m以上の天井高さを確保している。	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	—	2.0	0.33	-	-	
3 内装計画	天然素材の採用、間接照明の設置等。	4.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い材料の使用、防鳥網の設置等。	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	十分なスペースの清掃用具室と管理倉庫の設置等。	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法等に定められた25%増の耐震性を保有。	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を採用。	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用。	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備	—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	精密機器の地下空間への設置を避けている等。	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-	
床の積載荷重が4900N/m ² 。							
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
省水型便器、擬音装置、節水コマ等の採用。							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.5	0.60	-	-	4.5
2.1 材料使用量の削減			5.0	0.11	-	-	
BCP材、QLデッキ、ハイベースNEO等の採用。							
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
高炉セメントB種の採用。							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
リサイクル材を3品目用いている。							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
解体時の対策を2以上実施している。							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	
PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を1つ採用。							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1 消火剤			4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			4.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			4.5	0.33	-	-	4.5
LCCO2排出率削減に配慮している。							
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼機器を使用していない。							
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	
適切な量の駐車スペースの確保等。							
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
風害対策に対する要請がない。							
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-	
外に漏れる光への対策を行っている。							
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

(仮称)城南信用金庫新横浜支店ビル計画

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	2.0		○	○	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	-	-	○	○	-		○	○		○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	○	○			-	○	○	○	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		-	-	○	-	○	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	-	-	-	2.0	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	5.0		-	1.0	4.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	5.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	2.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.3	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)	窓システム	2.7	屋根 - 外壁 - 床 -
住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値 - η AC - η AH -
屋光率	1.8%		
自然換気有効開口面積率	0.0%		

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	10.0m ² /人	病床	0m ² /床	シングル	0m ² ツイン	0m ²
--------	-----------------------	----	--------------------	------	---------------------	-----------------

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	-	VA/m ²	
---------	---	-------------------	--

1.2.1 広さ感・景観

天井高	2.5 m		
-----	-------	--	--

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	-	年	
--------	---	---	--

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	15	年	
--------	----	---	--

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	20	年	
--------	----	---	--

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	15	年	
--------	----	---	--

3.1.1 階高のゆとり

階高	4.2	m	
----	-----	---	--

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	18.0%		
-------	-------	--	--

3.2 荷重のゆとり

床荷重	4900	N/m ²	
-----	------	------------------	--

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	30%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	20%	水平投影面積率	0%	地表面対策面積率	6%	舗装面積率	14%
-----	-----	---------	----	----------	----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.78	断熱等性能等級	対象外 相当				
----------------------	------	---------	--------	--	--	--	--

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0	MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%	
--------------	---	--------------------	-----------	------	-----------	------	--

			通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%	
--	--	--	-----------	------	-----------	------	--

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	0.48	住宅	-	太陽光	0kW	太陽熱等	0kW	蓄電池	0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	-----	------	-----	-----	-----

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%		
-------	------	--	--

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	オムレックスフロア官公庁指定品目等	-		
--------	---	---------	-------------------	---	--	--

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%		
------	------	--	--

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
---------------	---	--------------	---

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	124%	隣棟間隔指標Rw	0.11				
地表面対策面積率	7.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	2,113m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	39.982 m	基準高さH _b	42.29 m		
緑地	66m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²
				再帰性反射対策面	m ²		